

会		議		記		録	
会議の名称		公共交通対策特別委員会			会議場所	全員協議会室	
					担当職員	数井	
日時	令和4年11月11日(金曜日)			開議	午後 1時 30分		
				閉議	午後 1時 58分		
出席委員	◎三宅 ○奥野 田中 山本 赤坂 齊藤 石野						
執行機関 出席者							
事務局 出席者	井上事務局長、数井事務局次長						
傍聴	可	市民0名	報道関係者0名	議員0名(-)			

会議の概要

13:30

1 開議

[事務局次長 日程説明]

13:31

2 案件

(1) 4年間の活動のまとめについて

<三宅委員長>

4年間の委員会活動と執行部の取組を併記した資料と、令和2年度に行った提言書、また、4年前の委員長報告を配付している。さらに、桂川・道路交通課において開催されている亀岡市地域公共交通会議の一件を参考に添付している。本日の委員会では、4年間のまとめについて、提言をするかどうかなど意見をいただきたい。

<赤坂委員>

今さら提言書は出せない。京都タクシーとデマンド交通について協議したが、その実証実験ができていない。現在、中山間地域において、地域主体型交通が実施されているが、いつまでできるか分からない。本格的に動いていかななくてはいけない段階にきている。

<田中委員>

住民の交通手段を守ることは地方自治体の責務であることを一番において、亀岡市としてどう進めていくのか考えてもらいたい。やり方はいろいろあると思うが、地域主体型でやるとしてもその根本をしっかりと認識することが大切である。

<齊藤委員>

京都市山科区の小金塚団地も急傾斜地に建設された団地であり、ボランティアによる移送がされているが、そのボランティアも高齢化し、事業の継続が危ぶまれている。また、大阪のある地域では都市部に住民を移住させているところもあるが、それがよいとも思えない。これからのAI時代に合わせて、有効な手段を探っていく必要がある。

<山本委員>

地域主体型交通で地域の方が従事されているが、午前中の移送のみであり、民間の力を借りていくことも必要である。また、山間地域だけでなく、街中であってもバス停まで遠いなどの相談もあり、アンケート調査による実態把握をして、よりよい

方策を検討いただきたい。

<三宅委員長>

バス路線が重複しないように、また、できるだけ乗換えのないようにしてほしいという声は聞く。

<齊藤委員>

市民ノーマイカーDayは多くの人がバスに乗っていることから、利用客はあると思う。常に無料にはできないが、乗る人がいる以上何らかの方策へのヒントになるのではないか。

(2) 委員長報告について

<三宅委員長>

亀岡市地域公共交通会議は、京阪京都交通株式会社、京都府タクシー協会、一部の地域の自治会長、老人クラブなどの利用者代表、関係機関と行政職員により組織され、学識経験者としてグローバル交流推進機構の理事長が会長に就任されている。この会議と桂川・道路交通課が連携して公共交通の取組が行われている。これらを踏まえ、委員長報告を作成していきたいが、盛り込んでいくべき内容について意見はあるか。

<石野委員>

公共交通の取組は短期に結果がでるものではない。試行運転としてスタートした篠地区のコミュニティバスは5年目になるが、今後、篠インター近くの工業団地への利用客が期待されることもあり、時間をかけて効果を見極めてほしい。

<赤坂委員>

バス路線は増やすよう要望しても増えず、バス停から遠いという問題もあり、地域主体型交通も何らかの課題を抱えているが、あれもこれも言っても書いてあるだけになるので、重点的に絞った報告としていただきたい。

<齊藤委員>

亀岡市地域公共交通会議では、住民、交通関係会社、行政と利害関係が全く異なるメンバーで議論をしているので話は前に進まない。住民だけの意見をまとめてどうすれば前に進めるか検討いただく内容を報告に盛り込んでいただきたい。

<三宅委員長>

本日の意見をとりまとめ、委員長報告を作成する。作成に当たっては、正副委員長に一任いただくことでよいか。

— 全員 了 —

3 その他

<三宅委員長>

次回は12月定例会中の12月12日(月)午後4時から開催し、委員長報告の確認をいただく。

それでは、公共交通対策特別委員会を散会する。

散会 13:58